

事業番号	06 05 01	事業改善シート（令和元年度実施事業分）	当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	生物多様性保全事業		部局	環境部	課・室	自然保護課
			実施期間	S33 ~	E-mail	shizenhogo@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)						
8つの重点目標						
総合的に展開する重点政策	4-5 地球環境への貢献					

1 事業の概要

事業の現状・目指す姿 (予算編成時)	【現 状】 長野県として守るべき動植物（長野県希少野生動植物保護条例の指定種）を80種指定し、そのうち14種（H28末）について保護活動の指標となる保護回復事業計画を策定したが、依然として里山の荒廃、外来生物の拡大、温暖化などの影響により、希少種を始めとする長野県の豊かな生物多様性が脅かされている。
	【目指す姿】 多様な主体との協働による具体的な保全活動の展開に合わせて、信州の豊かな自然環境や生物多様性を社会全体で守る取組を推進し、県民の生活基盤である自然環境の維持・改善を図る。 「生物多様性ながの県戦略」の中期目標、「人と自然が共生する信州の実現」の達成
	【実施内容】 保全活動支援者の掘り起し、ライチョウなどの保護対策、外来生物対策方針の検討など

指標及びその達成状況 [↑:改善、↓:悪化、→:変化なし]							区分(単位:千円)		H30年度	R1年度	
No	成果指標	H29年度	H30年度	R1年度	目標値	達成状況	事業 コス ト	前年度繰越	0	0	
1	生物多様性の保全活動で支援・協働した企業・団体等	40団体	45団体 ↑	51団体 ↑	50団体	達成		予算額	現計予算	13,111	14,872
2	保護回復事業計画の策定及び評価検証数	21種	23種 ↑	24種 ↑	24種	達成			合計(A)	13,111	14,872
3									うち一般財源	7,258	5,927
4								決算額(B)	10,078	13,997	
								職員数(人)	7.3	7.3	

成果指標設定理由	①生物多様性保全パートナーシップ協定の締結や保全活動への寄付、マンパワーの提供などに参加・協力した団体数により、多様な主体との協働による生物多様性保全の進展状況を示すことができるため。(目標値：第四次長野県環境基本計画による) ②希少野生動植物保護条例に基づく保護対策の実施状況として保護回復事業計画の策定及び評価検証数を成果指標に設定(目標値：第四次長野県環境基本計画による)
達成状況の分析	企業や団体等とのパートナーシップにより社会全体で生物多様性を守る仕組みが定着しつつあり、支援・協働した企業・団体数は着実に増加している。 また、保護回復事業計画の策定をとおした保全団体との連携や、外来種対策等の普及啓発により、長野県の生物多様性保全の重要性が認識されつつある。

主な取組	<p>○保護回復事業計画(クビワコウモリ)の策定 (R2.3公表)</p> <p>日本固有種で長野県のレッドリストでIBに分類されている希少種のクビワコウモリの「保護回復事業計画」を策定</p>	 <p>クビワコウモリ</p>
	<p>○外来生物対策の普及</p> <p>本県で特に注意が必要な外来種について、駆除等の対策方針の検討や、駆除技術の開発、事例収集等を行い、これらを踏まえて30種の生態や防除方法をとりまとめ</p>	
	<p>○ニホンジカによる希少種の食害対策</p> <p>近年増加しているニホンジカが国立公園や県立公園の草原植生にダメージを与えることを防止するため、シカ忌避剤を現地適用</p> <ul style="list-style-type: none"> 霧ヶ峰高原：キスゲなど嗜好性の高い植物は忌避剤の効果は低い 美ヶ原高原：アザミ、マツムシソウなどは忌避剤のみで効果あり 	 <p>忌避剤適用事例</p>

2 今後の事業の方向性

	課 題 等	今後の方向性
今後、事業をどのようにしていきたいか	支援の可能性のある企業の掘り起こしや、さらに多くの企業の参画を促すためには、取組のメリット等をより具体的かつ効果的にPRする手法の検討が必要。 生物多様性を保全する取組を進めるためには、生物多様性に関する県民の理解が必要。	引き続き、企業や学校、団体等の多様な主体との協働による生物多様性保全の取組を推進する。 生物多様性に関する情報発信を行うとともに、関係機関と連携して環境教育・普及啓発に取り組む。

事業名	生物多様性保全事業	部局	環境部	課・室	自然保護課
-----	-----------	----	-----	-----	-------

細事業 No.	細事業名	H30年度 決算	R1年度 決算
1	生物多様性保全事業	10,078 千円	13,997 千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和元年度 実施内容(実績)
1	人と生きもの パートナーシップ推進事業 【生物多様性保全体制構築事業】	直接	企業など様々な主体を生物多様性保全活動の支援者として呼び込むための活動 ①支援企業の掘り起こし ②説明会の開催 ③協定締結 【支援候補企業との打合せ2社、合同説明会1回、新規協定1社】
2	人と生きもの パートナーシップ推進事業 【ホットスポット保全対策事業】	直接 補助金	希少種やホットスポットの緊急保全対策を県が実施 ①保護を啓発する看板等整備や緊急的な保護対策 ②シカ忌避剤の現地適用と普及 【看板設置1か所、防護柵2地域増設、忌避剤適用事例3件】 寄付金をもとに市民団体等が実施する生物多様性の保全活動に対して補助金を交付 ①長野市・飯綱町 ②上伊那農業高校バイテク班 【3事業体30万円】
3	希少種戦略構築事業 【希少野生動植物保護対策事業】	直接	・県民等の保護活動の指標となる保護計画の策定 ・希少種のパトロール活動を行う監視員の委嘱 【保護回復事業計画策定（クビワコウモリ）1件、監視員（哺乳類）19名】
4	希少種戦略構築事業 【ライチョウ緊急保全対策事業】	委託 直接	・ライチョウ生息環境等の基礎調査 【針ノ木岳周辺での生息調査】 ・ライチョウ保護マナー啓発 ・ライチョウサポーターズのスキルアップ 【北ア大天井岳でマナー啓発キャンペーン、チラシ作製4000枚、スキルアップ講習会1回、目撃情報収集150件、生息地域での保全活動】
5	外来生物戦略構築事業 【対策方針検討事業】	委託 直接	平成29年度から実施してきた成果等をまとめた「外来種対策ハンドブック」を作成し、外来生物の駆除対策方法を広く普及する。 【掲載30種、A4判、68頁を作成】 有害駆除等でアライグマが捕獲された地域を対象に、家屋への侵入ルート、地域への定着度を明らかにするための調査・解剖分析業務 【解剖12個体】 平成29年度に実施した①オオハンゴンソウ②オオキンケイギク③アライグマ調査を基に分布状況を公表し、今後の対策方針を検討 【外来種対策ハンドブックに掲載し活用】 分布調査に関連し、拡大過程解明のため、他県からの検体収集やDNA分析を行う 【DNA分析124個体】
6	外来生物戦略構築事業 【駆除技術開発事業】	直接	大学と共同でオオハンゴンソウ駆除労力の軽減・技術開発を行う 【東京農工大学との共同研究、外来種対策ハンドブックに事例掲載】
7	外来生物戦略構築事業 【駆除事例づくり事業】	委託	分布拡大初期にあるウチダザリガニを県が先行的に駆除し、初期対応の重要性を周知するモデル事例をつくる 【ウチダザリガニ駆除463匹、外来種対策ハンドブックに事例掲載】
8	自然環境保全地域等標識板設置事業	直接	老朽化して板面が判読しにくい案内標識板等を改修し、自然環境保全地域、郷土環境保全地域の指定理由や区域、特色を広く県民に紹介した。（上田市1か所）
9	自然探勝会	委託	障がいのある方への自然にふれあう機会を提供するための自然探勝会の開催【委託先：長野県手をつなぐ育成会】（県内2か所で開催）